



1 適正な水管理

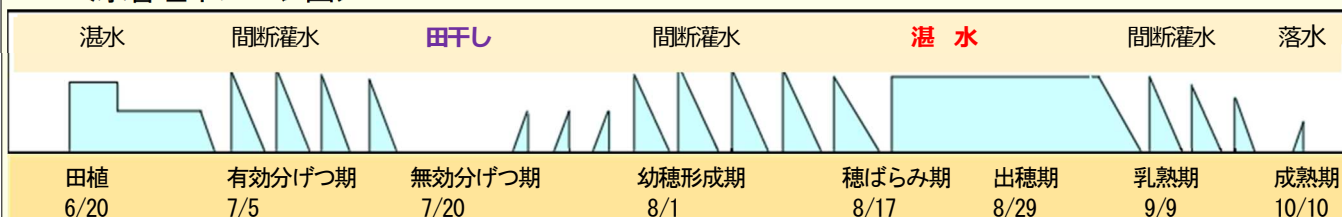
○ 田干し後の水管理

“浅水管理による間断灌水”が基本

○ 穂ばらみ期から出穂・開花期の水管理

「イネの一生の中で最も水を必要とする時期」であることから**湛水管理**とする。

＜水管理イメージ図＞



2 斑点米対策

令和5年産「おいでまい」の1等米比率は綾坂地区 81.1%、仲多度地区 94.5%でした。

落等要因としては、充実度、斑点米、異種穀粒等があり、特に綾坂地区は斑点米の割合が非常に高い傾向にありました(綾坂地区 46.1% 仲多度地区 18.1%)。

斑点米カメムシ類は、出穂期頃に飛来して繁殖するため、**出穂前後の防除が重要**です。

また、**出穂10日前までに**斑点米カメムシ類の住処となる**畦畔等の草刈**を行い、**必須防除を徹底**して斑点米カメムシ類の被害防止に努めましょう。

○ 斑点米カメムシ類



ミナミアオカメムシ



ホソハリカメムシ



アカスジカスミカメ



クモヘリカメムシ



イネカメムシ

3 適期・適正な病害虫防除

●必須防除の体系(「令和6年産おいでまい栽培のしおり(仲多度版)」参照)

①【箱施用剤】ビルダーフェルラチス GT 粒剤

②【粒剤体系】**出穂 20～15 日前**

ゴウケツモンスター粒剤
(いもち病、紋枯病、稲こうじ病
カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ)

出穂 10～20 日後

スタークル粒剤 又は スタークル豆つぶ
(カメムシ類、ウンカ類)

又は

【液剤体系】**出穂直前**

(混用)ダブルカットバリアフロアブル
+ スタークル顆粒水溶剤

又は 【粉剤体系】

又は ダブルカットバリアトリボン粉剤 3DL
(いもち病、紋枯病、
カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ)

出穂 10～20 日後

スタークル顆粒水溶剤
又は
スタークル粉剤 DL
(カメムシ類、ウンカ類)

●必須防除の考え方

◆育苗箱防除

箱施用剤は、いもち病に対し長期残効があり、葉いもちの上位伸展を抑制する。

◆本田防除

出穂前の防除により、紋枯病の上位伸展や穂いもち、斑点米カメムシ類、ウンカ類の被害を抑える。また、斑点米カメムシ類による斑点米の発生、ウンカ類の被害を防ぐため、出穂後にも防除を実施する。

●紋枯病の確認防除の考え方

- ・育苗箱処理による紋枯病の防除効果は、発病株数の抑制が中心。
出穂期頃からの上位伸展を抑制する効果は期待できない。
⇒ 紋枯病菌が上位葉鞘へ伸展し始める前までにバリダシン液剤5を散布。



出穂する穂

●「出穂」「出穂期」とは

病虫害防除や成熟期判定の基準となるため、確認方法を把握しておきましょう。

- ◆「出穂」とは……穂先が葉鞘から現れたとき(右写真参照)
- ◆「出穂期」とは……全茎数の4～5割が出穂したとき

4 病虫害発生予察情報

県下全域で水稻（短期、普通期）に対して 斑点米カメムシ類の多発生が予想されており、香川県病虫害防除所から「病虫害発生予察注意報」が発表されています。

病虫害の発生が確認される場合には、必須防除に加えて確認防除も行いましょう。

病虫害名	予想発生量	病虫害名	予想発生量
葉いもち・穂いもち	並	紋枯病	並
ウンカ類	並	斑点米カメムシ類	多
ツマグロヨコバイ	やや多		

令和6年8月6日香川県病虫害防除所発表

5 おいでまい作況情報

田植40日後の生育状況は、過去5か年平均に比べて草丈はやや長く、茎数は少なくなっています。

令和6年度水稻作況試験生育調査結果(普通期8月7日現在)：農業試験場

区分	田植日	30日後(7/20)		40日後(7/30)		幼穂形成 始期	出穂期
		草丈(cm)	茎数 (本/㎡)	草丈(cm)	茎数 (本/㎡)		
R6	6/20	52.5	497	67.7	654	8/7	—
過去5か年 平均	6/20	49.6	605	69.8	711	8/6	8/27
差(比)		2.9	▲18%	2.1	▲8%	1	

注) ▲は、短い、少ないことを示す。

★ マイスターチェック ★

- ☐ 水稻の生育期間中、最も水を必要とする穂ばらみ期～出穂・開花期にかけて、湛水管理ができていますか？
- ☐ 斑点米カメムシ類の被害軽減のため、出穂10日前までに畦畔等の草刈を行っていますか？
必須防除を適期に行っていますか？



熱中症に注意して農作業に取り組みましょう！